

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人奈良女子大学

1 全体評価

奈良女子大学は、女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的としている。第3期中期目標期間においては、①古都奈良に生まれ育まれた日本文化の洞察を通じ、ローカルかつグローバルに活躍できる女性リーダーを育成すること、②基礎物理学・分子科学・基礎生物学・高エネルギー物理学を中心に理工系諸分野の研究を進め、女性リーダー育成モデルを構築すること、③新たなライフスタイル創造の教育研究拠点を形成し、担い手としての女性リーダーを育成することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、他大学と連携し特色ある附属学校等における実践的な教育研究を行う連合大学院を設置するとともに、創立110周年記念事業の一環として学生も参画した新しい学生寮のコンセプトを公開するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 学生を知識、感性、主体性を兼備した優れた女性リーダーとして成長させるため、学士課程と博士前期課程の接続に配慮した6年一貫教育プログラムが選択可能となっているが、学生寄宿舍への入居や給付型の奨学金「大学院プログラム特別奨学制度」の実施など、支援を充実させている。また、既存学問分野の複合・融合を担保しつつも、土台となる基盤的な学問分野の見える化を進める組織改革を進めるため、大学院博士後期課程を改組することとし、特定分野における研究力の深化を目指す「専修系」と複合領域的な分野にまで視野を広げた「複合系」から履修系列を選べることとしている。（ユニット「文理を超えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成」に関する取組）
- 「奈良女子大学での勉学、奈良での生活に慣れ親しむための基本的な知識を身につけ、今後のキャリアデザインに活かす」ことを目的として、教養科目群に『奈良』女子大学入門」を新規開講し、662名の学生が受講するとともに、「地域志向科目」全体としては32科目を開講し、平成29年度を大幅に上回る1,810名が受講している。（ユニット「大和・紀伊半島から世界へ、世界から大和・紀伊半島へ、教育研究のグローバル化の推進と地方創生」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 創立110周年に向けた寄附金獲得の取組

令和元年5月に迎える創立百十周年に向け、新たに「創立百十周年記念事業特定基金」を設立し、学生寄宿舍の整備事業、百十周年記念行事に使用するための募金活動を実施している。建て替えを予定している学生寄宿舍の整備事業は、学生も参画する教職学協働によるプロジェクト「世界一住みたい奈良女寮 私たちがつくりたい寮のカタチ展」と題した展覧会で一般にも広く公開している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ **連合教職大学院の設置**

子ども自身が探究し、コミュニケーションし、協働する力を培う学校教育の実現を目指して、平成30年4月、福井大学、奈良女子大学、岐阜聖徳学園大学が連合教職大学院を開設し、各大学の特色のある附属学校・拠点校における実践研究を活かして、新しい教師教育を実践している。